

分野の目的		補聴器等をつけて自分から聞こうとする気持ちを育てることによって、聴覚を最大限に活用できるようにする。	
指導上の留意点		①学部の枠にとらわれず、子供の発達段階、聴力レベル、聴覚活用の状態、障害の状態などに合わせて指導する。 ②特定の時間のみでなく、子供の気持ちを大切にしながら、生活全般を通して行う。 ③子供の教育歴の違いに応じて、指導の始まりの段階を考える。 ④聴覚のみで聞き取る力を把握した上で、読話を併用して、分析的に聞き取る力（聴能）を育てる。 ⑤聴力測定や語音検査の結果を参考にする。（肉声かCDかランゲージパルかなど、音源の選定も十分検討する。）	
項目		音	言葉
段階		(音・リズム・メロディー・環境音)	(声・単音・単語・句・文・文章)
保相部 / 幼稚園部 / 小学部 / 中学部 / 高等部	ステップ I	<音の検出・音に親しむ> ○音の存在を知る。 ○音のする方を見る。<音源探索> ○音のする方へ手を伸ばす。<音源探索→定位> ○音の出る楽器で遊ぶ。 ○曲が鳴ると、体を動かす。 ○音の ON に気づく。 ○音の ON/OFF に気づく。	<声の検出・声に親しむ> ○声がしたことに気づく。<検出> ○声のする方を見る。<音源探索> ○声のする方へ手を伸ばす。<音源探索→定位> ○自分で声を出して、それをフィードバックする。 ○色々な声を出して楽しむ。 ○身近な人の声に反応して、音声の模倣をしようとする。
	ステップ II	<音の弁別・音に親しむ> ○音の大小・長短の弁別ができる。 ○曲の違いに気づく。 ○テンポの違いに気づく。 ○音の数の違いに気づく。 ○曲のリズムに合わせて、体を動かす。 ○曲にあわせて、リズム打ちができる。 ○身近な楽器音の違いに気付く。 ○部分的に歌を歌う。 ○音の数の違いがわかる。	<声の弁別・単語の識別> ○身近な人の声か、そうでないかがわかる。<弁別> ○ 3音節までの言葉（韻律）の模倣ができる。 ○ 1～6の数字の<追従>ができる。 JANT ○ 1～6の数字の<弁別>ができる。 JANT ○ 1～6の数字の<識別>ができる。 JANT ○音節数の異なる単語の<弁別・識別>ができる。 ○家族、親族の呼び方が分かり<弁別・識別>ができる。 親族呼称
	ステップ III	<音の弁別・識別> ○音の高低・速さの違いに気付く。 ○生活音や環境音の違いがわかる。 ○楽器の音を聞き分けることができる。 ○曲に合わせてリズムをとりながら歌を歌える。 ○曲に合わせて、決まった行動ができる。 ○曲当てクイズができる。 <曲の感じ> ○音楽を聞いて曲想（明るい/暗い、はげしい/やさしい、はずんだ/ゆったりとした等）を感じ取れる。 <音の方向> ○人工内耳両耳装用で音源がわかる。（左右・前後・上下）	<声の識別・単語の識別・単音の識別> ○教師や家族の話し声を聞いて、誰の声か分かる。<識別> ○友達、家族、教師、自分の名前が分かり<識別>できる。 ○音節数の同じ単語の<識別>ができる。 ○3音節までの単語を聞き取り、正しく復唱できる。 TY89 ○母音の<検出/弁別/識別>ができる。 67S 母音 ○子音の<検出/弁別/識別>ができる。 67S ○S音・K音・H音が入った単語の<弁別/識別>ができる。 ○濁音の<検出/弁別/識別>ができる。 ○拗音の<検出/弁別/識別>ができる。
	ステップ IV	<音の意味の理解> ○生活の中の音が、何の音かわかる。（家庭・店・駅） ○生活の中の音に、適切に反応できる。 ○自分の声をフィードバックして、大きさを調節することができる。 ○聞こえ方を表現できる。 小さすぎる ・ 少し小さい ・ ちょうどよい ・ 少し大きい ・ 大きすぎる ・ うるさい ・ 心地良い ・ 不快 ところどころ聞こえる ・ ゆがんで聞こえる ・ 雑音が入る ○生活の中の音を聞いて自分なりのイメージを持ち、適切な擬音語で表現できる。	<単語の識別・言葉の意味の理解> ○6音節までの単語を聞き取り、正しく復唱できる。 日常生活文 ○聞き慣れない言葉や初めて聞く言葉が聞き取れる。 ○指示文（2～4語文）を聞き取り、指示どおりに行動できる。 ○問いかけの文（5～6語文）を聞き取り、正しく応答できる。 ○イントネーションに気をつけて文を聞き取り、模倣できる。 ○アクセントに気をつけて単語を聞き取り、模倣できる。 ○読話を併用して、分析的に聞き取る習慣を身につける。 ○日常生活の様々な場面（店・病院・交通機関・親戚の集まる場など）で使われる言葉や文の聞き取りができる。 ○擬音語から、生活の中の何の音かを表現できる。
	ステップ V	<積極的な音情報の利用> ○環境音を聞きとって、それがどんな音かを表現することができる。 ○自分に聞こえる環境音、聞こえない環境音、危機回避につながる環境音を知る。 ○補聴援助システムを活用し、プログラムによる聞こえの違いを表現することができる。 ○音程を合わせて歌を歌える。	<積極的な聴覚活用にむけて> ○文末の活用語尾の変化に注意して聞き取るとともに、意味の違いが認識できる。 ○助詞の間違いを聞き取り、修正できる。 ○CDを使ってリスニングテストができる。 ○あるテーマの文の内容や学校・家庭・職場等で使われる短文を聞いて、前後の文を参考に状況を把握することができる。 ○教師や家族と電話でのやり取りができる。 文章

※段階の欄のステップと学部は、必ずしも一致させる必要はありません。子供の実態に応じて内容を選択し、指導を行ってください。

※検出：音のオン・オフが分かること。 弁別：2つの音について、異・同の判断ができること。

識別：何の音か聞き分けたり、聞き取ったりできること。 理解：弁別や識別をもとに、意味が分かること。